

未来を創る教員養成セミナー
教員ReStart支援セミナー

県の教育ビジョンと 自律した学習者の育成について

群馬県総合教育センター
研究企画係 天田 直木

1 群馬県教育ビジョンについて (第4期群馬県教育振興基本計画)

群馬県教育ビジョンの 策定に向けた想い

【児童生徒の皆さんへ】

自分も、みんなも、幸せになろう——それが、この「群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）」に込めた願いです。

皆さんの人生をどのようなものにしていくのかを選択し、決めていくのは、他でもない皆さん自身です。私たちは、日々の生活や学びを通して、自分を知り、自分の強みや弱みを理解し、試行錯誤を重ねて、時には失敗しながらも、より良い自分と幸せを求めて生きています。

そして、私たちは、自分の人生の主人公であると同時に、自分が生きているこの「社会」の一員でもあります。

児童生徒の皆さん——時に、「子ども」と呼ばれる皆さんもまた、「大人」と同じ「社会」を形成している主体（メンバーの一人）なのです。

ニュースやSNSの中で、「社会が悪い」、「社会のせいだ」という主張を目にしたことはありませんか？「社会が悪いのだから仕方がない」、「社会なんて変えられない」そんなふうに感じてはいませんか？

けれど、「社会」というものは、「自分以外の誰か」のことではありません。

誰かが勝手に決めているから、自分ではどうしようもない——そう思うことはありません。何故なら、社会を構成するメンバーの一人である皆さんは、「社会」を変える力を持っているからです。

一人きりで今すぐに社会を変えることは難しいかもしれませんが、それでも、周りの人と話し合い、協力し、より良い解決策を探しながら行動していくことで、「変化」を生み出すことは可能です。

人は、誰しも、生まれついて、自分と社会をより良くしようと願う心や、そのために必要な力を持っています。



この計画の内容を考えるときに、高校生と大学生が参加するワークショップを行いました。そこでは、「後輩に引き継ぎたい理想の学校はどんな学校か」、「学校に留まらない、これからの未来に向かう学びは、どのようなものになるとよいか」について意見を出し合いました。「生徒が主体的に動ける学校になるとよい」、「自分に合わせて意欲的に学んで、先生がサポートしてくれる環境が多くあるとよい」、「横（学校や各自のコミュニティ）や縦（年代）の広がりのある学びになっていくとよい」といった意見が多く出ました。

こうした「自分とみんなのために動きたい」、「そのために自分の意志で学びたい」という気持ちを伸ばしていくのか、それとも損ねてしまうのか。それは、皆さん自身の考え次第です。また、周りの大人の関わり方や環境によっても変わってしまうし、そこには教育の在り方も大きく影響すると考えています。

群馬県教育ビジョンでは、児童生徒の皆さんを「一方的に教えられ、守られるだけの子ども」とは考えません。皆さんそれぞれの年齢や状況に応じて、自分の頭で考え、判断し、行動できるようにするための力を身に付けてほしいと願っています。

群馬県を教育をより良いものにしていくために、更には、この社会をより良いものにしていくために、児童生徒の皆さんと私たち大人とが、共に力を合わせていけたら素晴らしいことだと思います。

群馬県教育委員会



群馬県教育ビジョンの本文はこちらの二次元コードから



第4期 群馬県教育振興基本計画 群馬県教育ビジョン 計画期間：2024年4月～2029年3月



最上位目標

自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ向けて
—ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「自律した学習者」の育成—



— これからの時代を生きていく私たちに必要なこと —

自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す

人は、誰しも、生まれついて自分と社会をより良くしようと願う意志や原動力を持っている。

- 一人一人が、自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す「自律した学習者」であること
- 子どもと大人が、お互いを主体として認め合い、協力しながら社会を作っていくこと
- 地域と、学校と、家庭が、協力して学びの場を作り、共に学び続けていくこと

現状の課題

- 私たちの（子どもたちの）主体性や社会参画への意識が弱いとされるのは何故か？
- 良かれとの思いから、失敗しないように先回りして与えすぎる教育が、生まれつき持っていた自ら成長する力（エージェンシー）を損なっていたのではないかと？
- これまで以上に先行きが不透明とされる時代に必要なのは、どんなものなのか？

2024年3月 群馬県教育委員会

計画期間：2024年4月～2029年3月

群馬県教育ビジョン

【最上位目標】

自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会に向けて
～ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける
「自律した学習者」の育成～

ウェルビーイング
？



エージェンシー
？

☆ウェルビーイングとは

多様な個人が、それぞれの幸せや生きがいを感じられ、身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福だけでなく、生きがいや人生の意義等の将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

☆エージェンシーとは

人が誰しも生まれついて持っている自分と社会をより良くしていこうと願う意志、原動力。

自分も、みんなも、幸せになろう

自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す

群馬県の教育が目指す5つの学習者像

- 自らが主語となる学びをつくり、深めていく
- 対話と交流により、信頼関係を築いていく
- 生涯にわたり学び続ける喜びを実感し、共有していく
- 多様性を尊重し、互いに認め合う
- 社会課題を自分事化して、行動に移す



目標実現のために持ち続ける視点

視点①

大人も、子どもも、社会的な「一人の主体」

視点②

学校で、家庭で、地域で・・・

自ら学び育つ、共に学び育つ

【今後5年間の教育の重点政策】

(1) 目指す学習者像実現のための重点政策

- ① 変化の激しい社会に対応できる資質・能力の育成
- ② 多様性を尊重し、協働する力の育成
- ③ 自分と社会をより豊かにするための生涯にわたる学びの支援
- ④ 心と体の健康に対する理解と向上
- ⑤ 時代の変化に対応した教育イノベーションの推進

【今後5年間の教育の重点政策】

(2) 群馬の教育を推進する基盤となる重点政策

- ① 「人」を支える取組の充実
- ② これからの時代の学びを支える施設・設備整備の推進
- ③ これからの時代の学びを見据えた体制の整備
- ④ 学びの充実に向けた様々な主体による連携・協働の推進
- ⑤ 全ての子どもの学びを支援する取組の充実

2 自律した学習者の育成について

「自律した学習者」とは・・・



何が重要かを自ら主体的に判断し、問いを立て、解決を目指していける力を持つ学習者のこと



Q 教師は教えずに見守っていればよいのですか？

A 決して教えないということではありません。教師の役割が、一方的に「教える」だけでなく、子供たちの興味・関心を引き出したり、学びを支援したりする、いわゆる「伴走者」へ変化しているといえるでしょう。教師は、授業の中で子供たちに、「やってみたい、学びたい」と思える学びの必要感と、「失敗しても大丈夫！」という安心感を持たせることが大切です。

Q エージェンシーは幼児期から発揮されるものなのですか？

A 幼児教育施設では、幼児が自発的な活動としての遊びの中で、「やってみたいな」、「できるようになりたいな」という思いや願いを持ち、自分の力で考えたり、先生や友達にコツを尋ねたり、試行錯誤しながら挑戦したりする姿が見られます。まさに、エージェンシーを発揮している姿といえるでしょう。このような姿は、小・中・高と、さらにエージェンシーを発揮して学んでいくための基盤となります。



Q 「主体的・対話的で深い学び」とはどのような関係にありますか？

A 「主体的・対話的で深い学び」の充実には、エージェンシーの発揮が欠かせません。エージェンシーと学習指導要領の資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）は、深く関係します。子供たちは、もともと「自分で考え、友達と話し合い、決定して、行動する力」を持っています。当事者意識を持たせ、子供中心の学びを実現することで、「主体的・対話的で深い学び」がより充実していくと考えます。

Q 「非認知能力」の育成とは関連がありますか？

A 群馬県では、非認知能力の育成に向けた研究を進めています。テスト等で点数化できる認知能力に加えて、「失敗を恐れない心」や「人と関わる力」、「自分で考え、行動する力」等、客観的な点数にしにくい非認知能力を伸ばすことは、子供たちが持っている力を最大限に発揮するために大切です。非認知能力は、先生方が、これまでも授業や学校行事、部活動等、様々な場面で、子供たちを温かく励ましながら育ててきた力です。非認知能力を伸ばすことは、エージェンシーを発揮するために必要な要素の一つだと考えます。



Q 特別な支援や配慮を必要とする子供たちの学びには、どのようなことが大切ですか？

A 子供たちの的確な実態把握に基づき、学習集団や児童生徒の特性に応じた学習環境を整備し、「個別最適な学び」、「協働的な学び」を充実させることで、子供たち自身の「もっとやりたい」という気持ちを引き出すことが大切です。障害の有無、国籍、性差等に関わらず、全ての子供たちが互いに学び合い、高め合うために必要な支援や配慮を行うことが重要です。

<参考資料>

- 「教育振興基本計画（リーフレット）」（文部科学省）
- 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指す～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（中央教育審議会）
- 「OECD ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030」（OECD）

「群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）」はこちら➡



エージェンシーを発揮する

「自律した学習者」へ

～「群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）」の実現に向けて～

幼児教育施設から高等学校まで、全ての学校園で取り組みます

自分で学びをつくと楽しいね

知らないことを知るのはいっぱい

違う考えがあるから面白いね

失敗してもいい自分の言葉で話そう

社会をつくるのも変えていくのも誰かじゃなくて自分たちなんだ

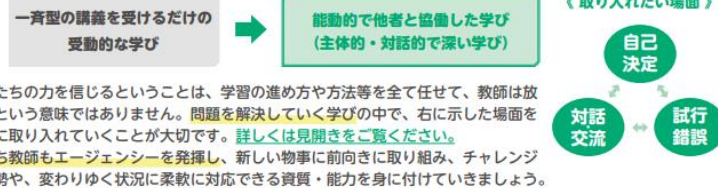
エージェンシー？カタカナで分かりにくい。自律した学習者？また新しいことをしなければいけない？

学校生活の中で、写真のような子供たちの姿が現れるといいですね。そのためには、子供たち一人一人がエージェンシーを発揮する自律した学習者になっていくことが大切です。

でも、実際は、こんな感じの子が多いな…

間違えているかもしれないから黙ってしよう。言われたことだけやればいいや。

エージェンシーとは、「人が誰しも生まれついで持っている自分と社会をより良くしようと願う意志、原動力」です。学ぶ内容は、幼稚園教育要領や学習指導要領に示されている内容であり、これまでと変わりません。今、私たち教師に必要なのは、子供たち自身の力を信じ、学びの転換を図ることです。



自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す！

●群馬県教育委員会 平田郁美教育長からのメッセージ●

子供たちは、生まれながらにして自分と社会をより良くしようと願う意志を原動力にして、爆発的に成長しようとする力を持っています。この力を生かした教育の実現に向けて、失敗を恐れず、試行錯誤しながら取り組んでいきましょう。

メッセージ動画はこちら

令和6年3月 群馬県教育委員会
（エージェンシーを発揮するための学びを推進するリーフレット）

共通認識したいこと

自分事化 自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す！

幼稚園教育要領や学習指導要領の資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）の育成を目指して、具体的な取組の例を示します。

●《取り入れたい場面》を意識した問題解決的な学びを行いましょう。

●教師は見守りつつ、適切な支援（意欲や目的意識を高める問いかけ、比較・分類・関連等を意識した発問等）を行いましょう。

※子供たちが好きなことを自由にしてよいということではなく、課題の解決に向け、友達と協働しながら自分たちの力でより良い方法を考えることができるようにすることが大切です。

《取り入れたい場面》

自己決定	自己決定	当事者意識を持ち、主体的に学習に取り組む
対話・交流	対話・交流	自分の考えを広げ、他者との共感や理解を深める
試行錯誤	試行錯誤	失敗や誤りから学び、より効果的な解決策を導く



発達状況に応じて、「自分で考え、決める」割合が増えていきます。

幼児教育施設

ポイント

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて、環境の構成をしましょう。

●水遊びの場面（水遊びおもちゃ）



昨日、先生がくじらから水を出していたな。

水が高いところから低いところに落ちる仕組みを利用した「くじらのおもちゃ」を用意して、見守ります。



子供たちが何度も試しながら、あきらめずに自分たちで、「くじらのおもちゃ」から水を出す方法を見付けることができました。

教科学習の素地となる遊びが自然に行われます。

ポイント

「課題を自ら見だし、考える」場面を増やし、自分で学びをつくる楽しさを実感できるようにしましょう。

●1年算数「ながさくらべ」の比較の仕方について考える場面

友達粘土と長さ比べたいな。でも動かす粘土が切っちゃう...



リボンや鉛筆等、比較に使える具象物を用意して、自由に使えるようにします。

リボンを使えば比べられそう。鉛筆も本分でも比べられるかも...



子供たち同士で試行錯誤しながら、長さの比べ方を考えることができました。



総合的な学習（探究）の時間は、実社会や実生活の課題を解決する実践の場であり、そこでの振り返りが各教科等の学びに深まりと広がりを生み出すことになります。

行事等



暮らしの思いを自由に表現する作品展



自治的な話し合いに基づく手作りの行事



生徒主体で課題を見直す生徒会活動



自分で事業所を見つけて決める職場体験



明るい地域づくりを目指す花植えボランティア

ポイント

活動自体が目的ではなく、自分たちで行事を作り上げていく意義を実感し、より良い社会を実現するために何ができるかという視点を持って生活できるように支援しましょう。

エージェンシーを発揮（自律した学習者）

ポイント

自分で決定し、他者と交流しながら、友達と試行錯誤する場面を増やしていきます。

●1年理科「光の性質」の全身が映る鏡の大きさを考える場面



自分は実際に実験をして確かめたいけれど、友達のように前に学んだ作業を使っても予想が合っているといえそうだな。



様々な方法で考えたことを交流する良さを味わうとともに、光の性質を多面的に考えることができました。

総合的な学習（探究）の時間



体験や交流を通して課題を見だし場面



仲間とともに考える場面



探究してきたことをアウトプットする場面

ポイント

自らの生き方や社会の課題の解決に向けた探究的な学習となるように、単元・題材をデザインしましょう。

●英語コミュニケーション！課題について考察する場面

私たちの身近な地域の課題ってどんなことがあるかな？

Our Project
To work on social issues around you and to give a presentation in English

私たちの町は高齢化が進んでいるよね。

実社会における課題を自分事化し、分析・考察した上で、具体的な提案・解決策を英語でプレゼンテーションする単元をデザインします。

誰もが住みやすい町にするには、どうしたらいいかな？



地域や社会を調べ、試行錯誤しながら課題の解決につながる提言をすることができました。

ポイント

探究意欲（ワクワク感）を高められるような課題と出会う活動を設定したり、やりがいや達成感を味わえるよう、自分の思いを形にする場を設定したりしましょう。

変化の激しい社会を
自分の力で
歩んでいける人

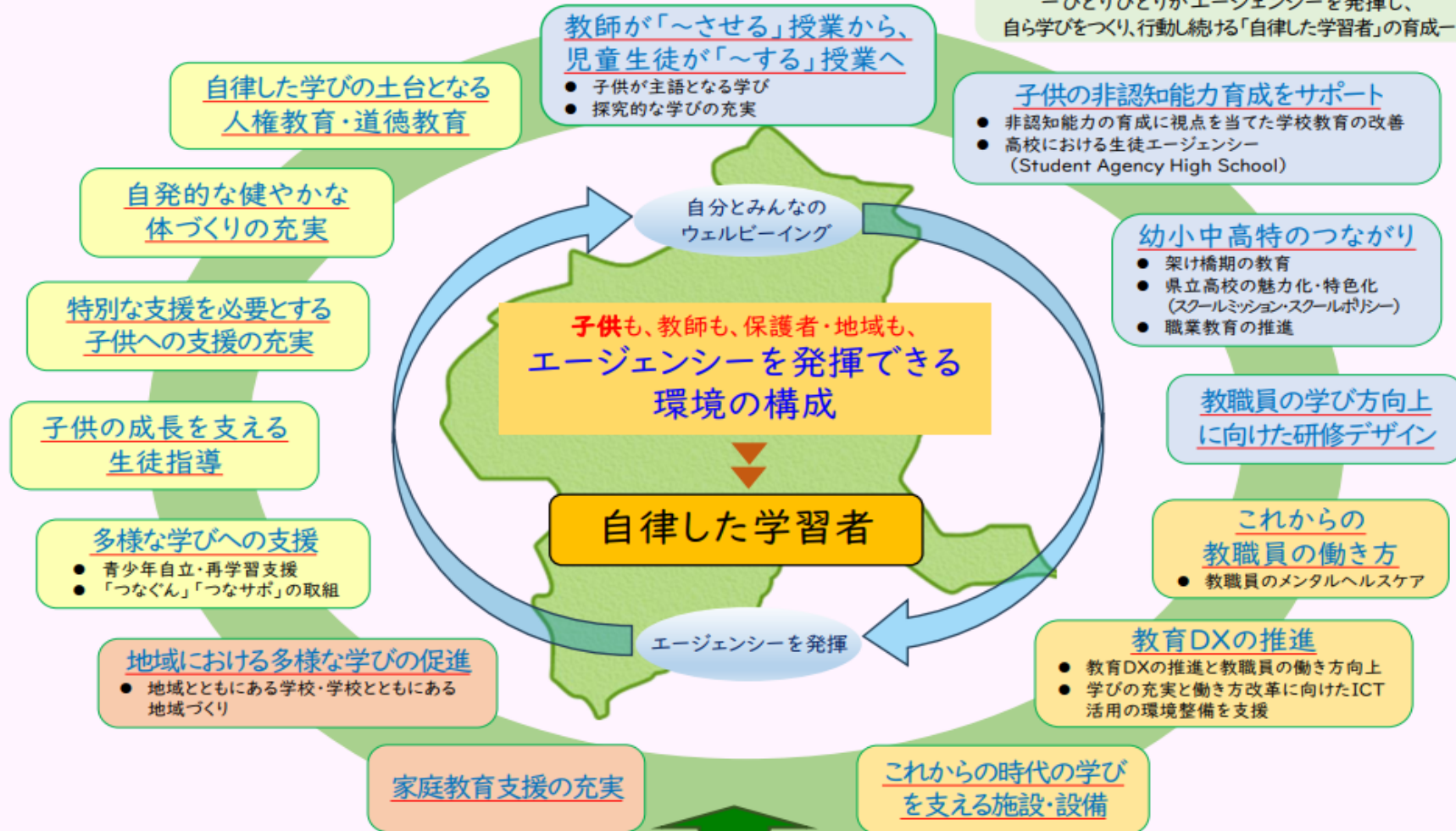
上記の場面はあくまでも一例です。総合的な学習（探究）の時間と行事等は、どの校種にも置き換えて考えることができます。

群馬県教育ビジョンの実現に向けた取組 ～オール県教委で支える「自律した学習者」の育成～

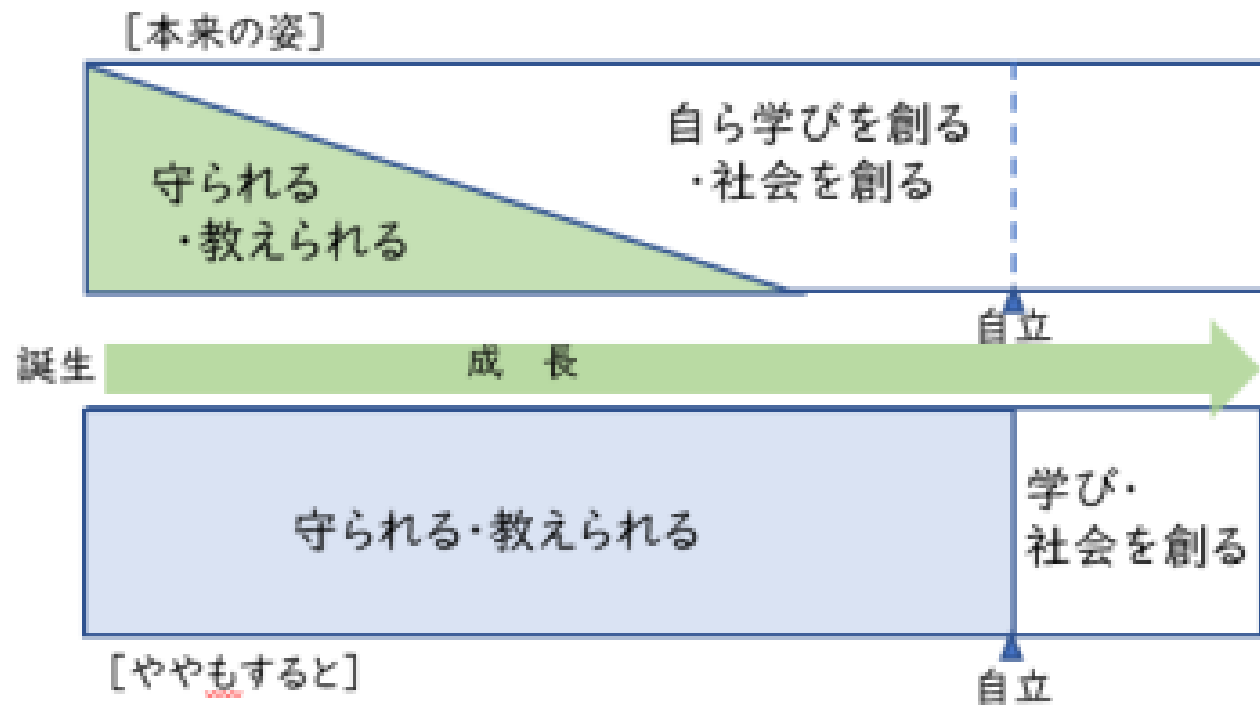
(第4期群馬県教育振興基本計画)

群馬県教育委員会では、教育ビジョンの実現に向けて、「自律した学習者」の育成に必要なエージェンシーを発揮できる環境の構成に、各課で取り組んでいます。

群馬県教育ビジョン 最上位目標
自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、
高め合う共生社会へ向けて
一ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、
自ら学びをつくり、行動し続ける「自律した学習者」の育成



心理的安全性のあるインクルーシブな環境づくり



発達の段階に応じ
て、子どもたちが自
律して「自ら学びを
創る・社会を創る」
割合を増やしてい
き、スムーズに「自
立」できることを目
指す

○ 自律した学習者を育成するためにどんなことを意識していきますか？

・授業の中で・・・

・学校生活全般で・・・



おわりに

子どもに寄り添い、ともに学び続ける
教員になってください！

